

地域全体の糖尿病診療の 質的向上に向けて病診連携を強化

糖尿病発症早期からの良好な血糖コントロール維持は、予後を大きく左右するといわれる。そのため、発症早期の患者に対して、糖尿病教室や個別指導などの療養指導が重要となる。さらに、ふだんはかかりつけ医で管理しながら、合併症検査や血糖コントロール悪化の対応などは病院

で行うといった病診連携も重要である。地域の中核病院の1つである同院は病診連携にも力を入れており、合併症精査のみならず、教育入院目的や個別栄養指導目的のための紹介患者も積極的に受け入れている。

「当院スタッフの拡充を図るとともに病診連携をさらに強めて、今後は糖尿病予備群に対する指導にも力を入れていきたい」と難波先生は抱負を語る。地域における糖尿病診療の質的向上に向け、さらなる同院の取り組みが期待される。



DMFrontline
糖尿病治療を支える最前線スタッフの創意工夫

DM
Frontline

糖尿病治療を支える最前線スタッフの創意工夫

編集・発行 (株)マツキャンヘルスケアワールドフロンティア

Diabetes DM Mellitus Frontline

糖尿病治療を支える最前線スタッフの創意工夫

診療科の垣根を越えた連携と 多職種によるチーム医療で、 きめ細かな糖尿病治療を実践

興生総合病院

興生総合病院 総院長
難波 康男 先生



糖尿病は三大合併症(腎症、網膜症、神経障害)のほか、脳血管・心血管障害など各種の合併症を発症しうる全身疾患でもある。近年、糖尿病患者の増加にともなって、他の疾患で受診する糖尿病患者も増えており、糖尿病は周術期管理にも影響することから、糖尿病に対する治療レベルは施設の総合的な医療力を示す指標の1つともいえる。

興生総合病院は施設をあげて糖尿病診療の質的向上に取り組んでいるが、糖尿病患者に対する療養指導を強化するため、2004年11月から糖尿病教育入院を開始した。スタッフによるきめ細かな療養指導とともに歯科も含めた合併症対策により、糖尿病患者の療養生活を全面的にサポートしている。

三原市の中核病院の1つとして、糖尿病診療における病診連携にも力を入れている同院の糖尿病治療における取り組みについて、同院総院長である難波康男先生にお話を伺った。



興生総合病院 総院長
難波 康男 先生

興生総合病院



※資料はすべて興生総合病院より提供

診療科の垣根を越えた連携と多職種による チーム医療で、きめ細かな糖尿病治療を実践

興生総合病院
所在地:広島県三原市
病床数:323床
外来患者数:543人
(2008年度1日平均)

患者とスタッフの距離が縮まる 糖尿病教育入院

「患者さんが自分の病気を理解し治療に積極的に取り組むことは、すべての病気の治療において重要ですが、とくに生活習慣病である糖尿病治療では最も大切なことです」と、興生総合病院総院長の難波康男先生は指摘する。

同院では20年以上前から糖尿病患者に対する栄養指導を実施しているが、当時は「糖尿病は食事にさえ気をつけていれば

大丈夫」と誤解している患者も少なくなかったという。しかし、このような患者に対して、外来診療の短い時間内に十分な指導を行うことは不可能である。そこで、同院では患者一人ひとりに合った療養指導、とくに合併症対策に重点を置いた教育を実施するため、糖尿病教育入院を2004年11月から開始した。

同院の教育入院は原則、月曜日から金曜日までの5日間（インスリンを必要とする患者に限り翌週木曜日まで）、きめ細かな指導を行うために毎回の入院患者数を5名に限定している(表1)。「教育入院の患者さんを受け入れる際、事前に

カンファレンスを行って、その患者さんに関する情報をスタッフが共有し、糖尿病教室や個別指導に役立てています。また、患者さんの担当看護師を決めて、入院中は同じ看護師が患者さんをサポートしています」と、天野はるみ副看護部長は言う。

入院中に行われる糖尿病教室では、個々の患者に応じた臨機応変な説明を行うとともに、毎回講義終了後には患者に話しかけて講義の理解度を確認する。「糖尿病教室での説明だけでは不十分であれば、ベッドサイドまで赴いて説明することもあります」と、川口健薬剤師は話す。糖尿病教室以外でも、ふだんから患者への声かけを積極的に行っているが、こうした取り組みによって患者と

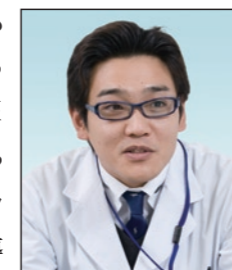
スタッフとの距離が縮まり、スタッフの説明にも耳を傾けるようになるなど、患者の治療に対する積極性も生まれてくるという。

教育入院が成果をあげるには、患者の日常生活に即した実践的な指導が求められる。そこで、「患者さんの日常生活を把握したうえで、その人に合った食事療法を指導しています」(松宮早紀管理栄養士)、「道具を使った運動などは長続きしないこともあるので、歩くことを主に勧めています」(細慶子理学療法士)など、患者一人ひとりに合った個別指導にも力を入れている。

こうしたスタッフのきめ細かい療養指導により、同院の教育入院は確実な成果をあげている。2004年11月から2009年7月までに同院に教育入院した患者は174名で、いずれも入院前に4ヵ月以上糖尿病治療を受けており、入院前3ヵ月間のHbA1cの平均値は8.3%であったという。しかし、退院後3ヵ月目ではHbA1cの平均値は6.7%と、教育入院により1.6%も低下し、大半の患者はその後そのレベルを維持できている(表2)。糖尿病療養指導士(CDE)の資格をもつ高橋弥生看護師は、「入院中に築かれた信頼関係が、退院後も療養意欲を継続して保つことに役立っていると実感しています」と語る。

糖尿病教室には歯科医も参加、 院内あげて糖尿病診療に取り組む

同院における糖尿病療養指導のもう1つの特徴は、歯科医も参加している点である。糖尿病教室において歯科医が糖尿病と歯周病との関連を説明するとともに、実際に患者の口腔内をチェックし、必要であればブラッシングの指導も行っている。「歯周病は糖尿病の第6番目の合併症といわれており、血糖コントロールにも影響します。幸い、退院時のアンケート調査で、9割以上の患者さんが糖尿病と歯周病との関係が理解できたと回答しており、また、治療が必要な患者さんは実際に歯科を受診



歯科 医長
小出 康史 先生

されています」と、同院歯科医長の小出康史先生は糖尿病教室に歯科医が介入する意義を語る。難波先生も「歯科を定期的に受診することで、血糖管理の重要性に関する意識も高まります。退院後も良好な血糖コントロールを維持できているのは、歯科医の協力によるところが大きいと考えています」と、歯科との連携の重要性を指摘する。同院では、糖尿病管理のみならず、全身麻酔時の喉頭鏡挿入による歯牙損傷を予防するため、全身麻酔予定患者全例に対して口腔内をチェックするなど、医療安全上からも内科と歯科との連携を重視している。

糖尿病の血糖管理状況は周術期管理にも大きく影響する。そのため、糖尿病診療のレベルはその施設の総合的な医療力を示す指標の1つともいえる。同院における糖尿病診療の質的向上のための取り組みとして、難波先生は「診療科を超えた糖尿病管理が重要ですが、幸い、当院は診療科間の連携が密なので情報の共有化はできています。それが特徴とも言えますが、施設全体の糖尿病診療の質的向上には全科の医師の糖尿病治療に関する知識のレベルアップも必要ですので、全科の医師が参加する毎朝のカンファレンスでは、糖尿病治療に関するトピックスも取り上げて研鑽に努めています」と語る。看護部でも定期的な糖尿病に関するカンファレンスを行っており、外部講師を招聘して院内勉強会を全職員対象に実施するなど、院内あげて糖尿病診療のレベルアップに努めている。

	主な検査項目 (午前)	教室 (15:30 ~ 16:30)
曜日	第 1 週 目	
月	入院、75g 精密糖負荷試験 ^{*1} 検血、検尿、胸写、腹単、心電図	糖尿病とはどんな病気か〔医師〕
火	血糖・尿糖ターゲット ^{*2}	合併症について〔医師〕 血糖測定器デモ〔薬剤師〕
水	1日蓄尿開始、頸動脈エコー フットケア〔看護師〕	歯科受診 (14:00 ~ 15:30) ^{*3} 食事指導 (集団指導)〔管理栄養士〕
木	蓄尿採取、血糖ターゲット ^{*2}	運動療法指導 (14:00 ~ 15:00) 眼科受検 (精密眼底検査) 15:00 以降
金	運動療法	薬物療法 (内服薬)〔薬剤師〕 精査結果説明後可能な方は退院
曜日	第 2 週 目	
月	運動療法、血糖ターゲット	薬物療法 (インスリン注射)〔薬剤師〕
火	運動療法	
水	運動療法、血糖ターゲット	食事指導 (個別指導)〔管理栄養士〕
木	講評、退院	

注1) 入院に際しましては、午前8時までに絶食にて御来院ください。

注2) 糖尿病教室の場所は4階 中会議室です。

第1週水曜日のみ4階 多目的ホールで行います。

注3) 薬物療法が不要な方、もしくは内服薬のみでコントロールできる糖尿病の方は第1週目の金曜日に退院できます。しかし、インスリン投与が必要な糖尿病の方は第2週目までの入院が必要です。

*1 すでに糖尿病と診断されている方には実施いたしません。

*2 血糖・尿糖ターゲットを行う時間は7°、10°、14°、20°を基本としますが、患者様によっては時間がずれますので御了承ください。

*3 曜日・時間が変更となる場合がありますので御了承ください。

(本プログラムは2009年12月時点のものです)

表1 興生総合病院 糖尿病教育入院プログラム

	検査施行者数	HbA1cの平均値
3ヵ月前	62名	7.8%
2ヵ月前	66名	8.6%
1ヵ月前	112名	8.4%
3ヵ月間の合計	240名	8.2%
入院月	151名	8.3%
1ヵ月後	133名	7.4%
2ヵ月後	127名	6.9%
3ヵ月後	122名	6.7%

表2 教育入院施行者数174名(2004年11月~2009年7月)